

全国の各市町村様へ

そろそろカーボンニュートラル達成のための具体的な内容（シナリオ）が必要だと考えておられると思われませんが、木造人工島の「波力発電」で、地産地消での全再エネ化が可能であり（後述）、また「ブルーカーボン」を可能な湾岸の空きスペースや河川敷（にプールを設定）や湖等の可能なエリアで実施することで、また公海上の無人島などでの洋上研究所での貢献も含めると、ある程度は化石燃料を使い続けることが可能で、また生活上での過度な温暖化防止への気遣いが不要で、例えば、ハイブリッド車を最終の形態としてもよいと考えております。

「ブルーカーボン+」は、藻の育成場所に透明なアクリル板を張り、子供の遊び場や各種スポーツ競技が行えるようにし、災害時には、高床 TENT を設定したり、仮設住宅を設置することができますので、主に海岸沿い、湖や河川敷等の生活エリアに近いところに、最も安全安心な場所（余震・津波に強い、火災やがけ崩れの心配がない）として有効に使えらるかと考えています。

例えば、熊本地震では、直接の震災での死亡よりも、災害関連死（特にトイレの我慢をはじめ、プライバシーが守れずストレスが拡大するのが主な要因）ははるかに多いのですが、本提案ではトイレは海又はプールに流し、電気も水もすぐに使えるので、災害関連死もなくなると考えています。



—————以下は神奈川県様へのメール—————

パブリックコメントの取りまとめや神奈川県様の計画改定の作業等、大変お疲れ様でございました。情報提供をありがとうございました。

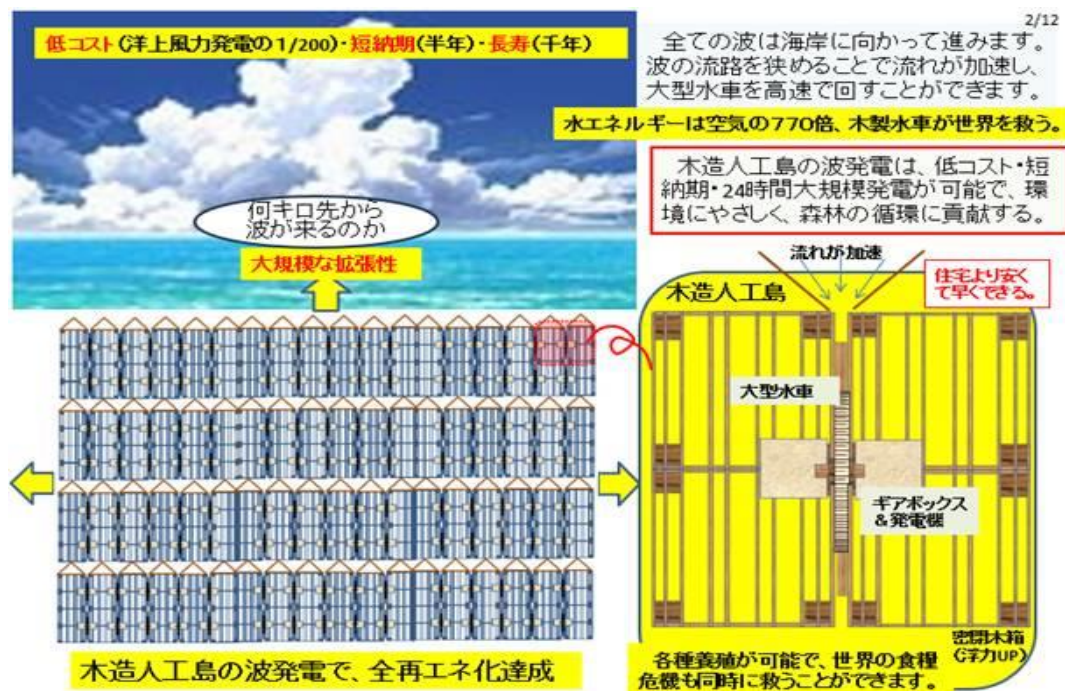
しかしながら、このままでは、化石国・環境後進国であり、日本の再エネ市場は中国をはじめとする外国勢に占められたままです。具体的な巻き返しの内容を盛り込んでいく必要があります。

資源エネルギー庁様には、複数の電話やメールで、以下の内容を申し入れ、彼らはすぐには動きそうにはありませんが、私からはどんどん自治体側に推進を依頼していきますと、話してあります(宣言したつもりです)ので、**神奈川県様にて木造人工島の波力発電とブルーカーボンへのお取組みをいただけないでしょうか？**

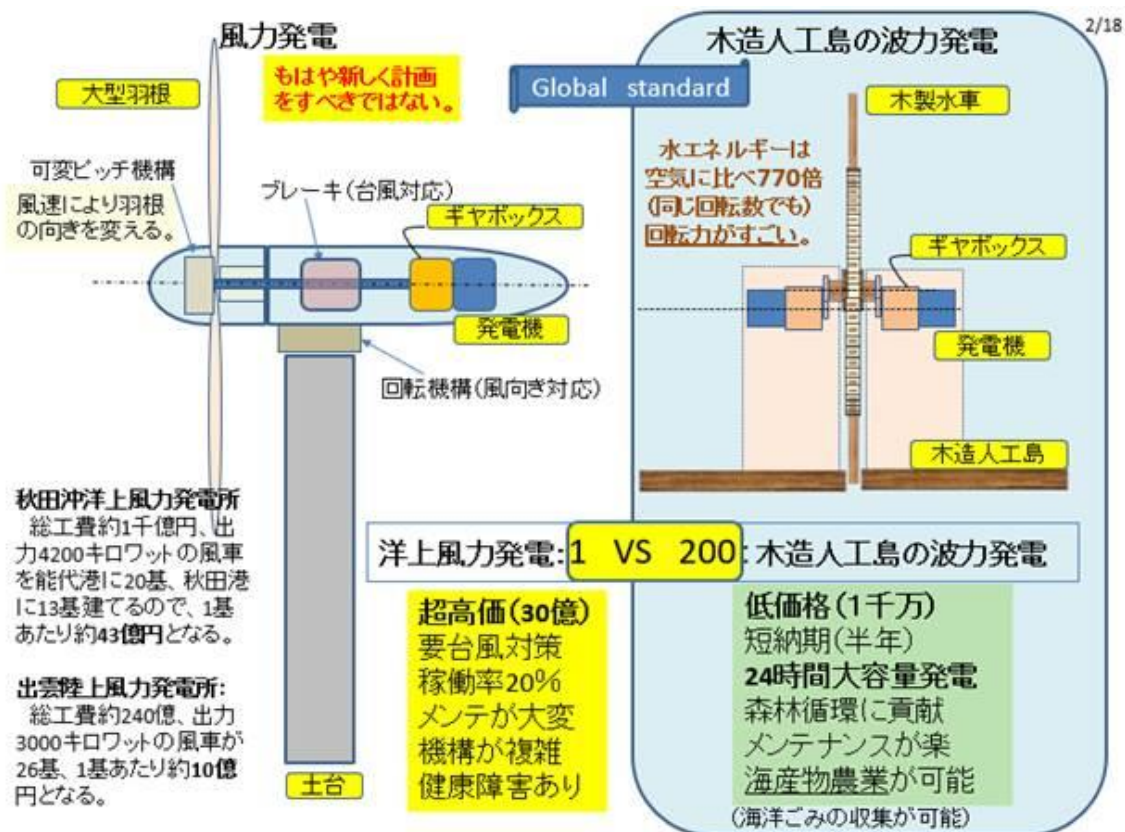
—————以下は資源エネルギー庁様へのメール—————

木造人工島の「波力発電」と「ブルーカーボン」は、カーボンニュートラルの達成に向け、かなり有力なシステムとなりますので、また GDP を大幅に UP させる有力な輸出産業となりますので、紹介させていただきます。

海水の流れは浅瀬に向かう性質があり、波は常に海岸に向かってきます。沿岸部に□12mの木造人工島を4個つくり、その上にφ19mの水車を設定し、水車の方向を海岸線に垂直に向け、波の受け口よりも狭い流路幅で水車を回すと高速で回転し、また水は空気のエネルギーに比べ770倍もあるので、トルクが大きく、ギアボックスでの加速が効き、高速で発電機を回し、24時間大容量の発電が可能となります。



風力発電と構造が似ておりますので、比較してみますと、発電量、設置コスト、環境破壊がなく、設置しやすさ、維持コスト、納期等、全てで圧倒しております。

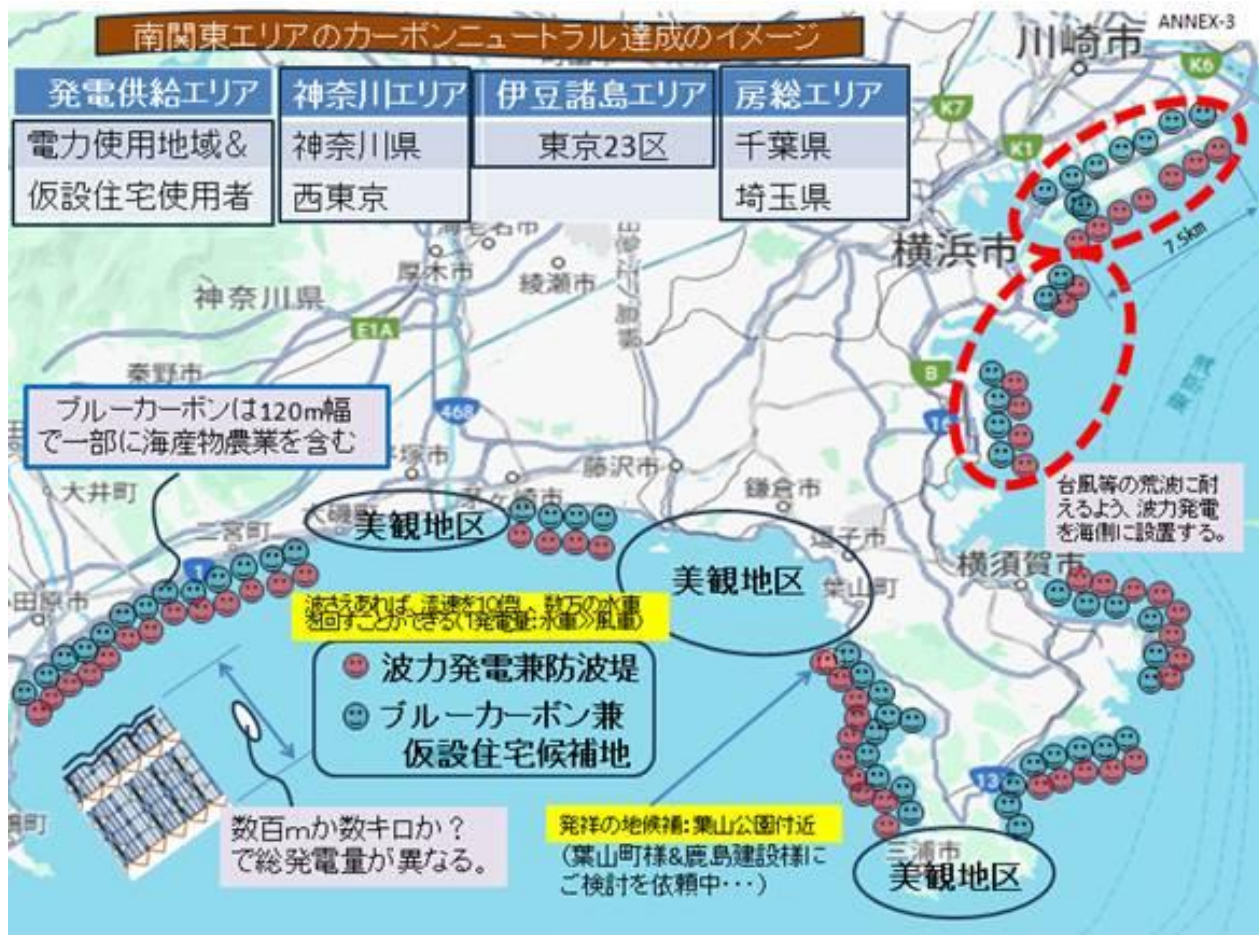


また沖に向かい（波がある限りは）波力発電の重層が効き、莫大なエリアでの発電が可能で、世界のカーボンニュートラルの目途が立ったと考えています。

IAEA の資料によれば、2020 年の日本の年間電力使用量は 986.95TWh = 約 1TKWh。

日本の年間電力使用量：約 1Tkwh（2020 年）で、1 基の平均的な風力発電の年間発電量は 370 万 kwh なので、風力発電のみで賄うとすると、約 27 万基が必要で、47（都道府県）で割ると、平均の県単位では、5700 基です

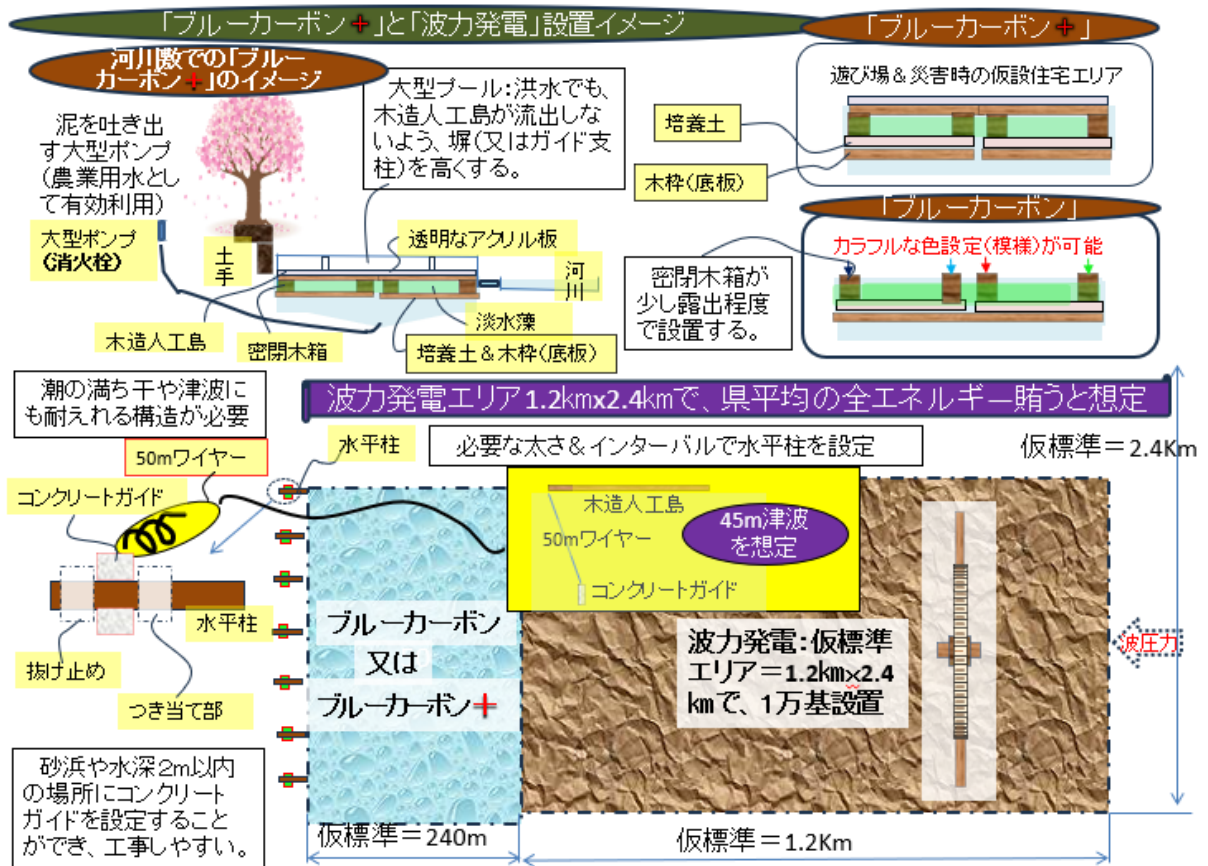
（木造人工島の事本は 12mx12m であり、横方向は 12mx 縦方向は 24m で 1 基の水車）木造人工島の波力発電機は、12m x 24m で 1 基が設置でき、120mx240m では 100 基、1200mx2400m では、1 万基が設置できます。水エネルギーと空気エネルギーの差（770 倍）や 24 時間連続発電を考慮すると、波力発電 > 風力発電なので、各県の平均単位で考えて、波力発電のエリアが 1.2 km x 2.4 km もあれば十分であると考えています。（ガスや灯油等のエネルギー分もカバーできる。）



また、美観地区内等でも、観光やマリンスポーツ・商業施設・漁業の妨げにならない範囲で、木造人工島のブルーカーボンを増やしたいと考えています。

木造人工島の「ブルーカーボン」とは、海上や湖上に浮遊型の木造人工島を浮かべ、該木造人工島から、ワイヤーで吊った培養土ユニットで海藻又は淡水藻を育成し、該海藻又は淡水藻の光合成によってCO<sub>2</sub>を削減するシステムで、海藻又は淡水藻は、一般的に陸上の樹木に比べ、10倍程度の光合成の効率があり、また、海底（湖底）に沈んだ炭化されたものは、微生物による分解がなく、千年単位で維持されます。（陸上では、微生物で分解され、数十年後にはCO<sub>2</sub>に戻ってしまう。）

それで「ブルーカーボン+」ですが、海藻や淡水藻を養殖食糧としても使い、さらに、劣化しにくく、滑りにくいアクリル板を開発し、その上で各種スポーツや遊び場として有効利用できるようにし、地震（余震）や津波にも強いので、またがけ崩れや建物の倒壊及び火災の心配がないので、緊急の退避場所にしたり、仮設住宅の設置エリアとしても有効に使えると考えています。



木造人工島のブルーカーボンを、美観地区であっても、湖や港湾の空きスペース（河川敷でも使っていないエリアをプール化して）等を有効に活用し、身近なところに設置し、CO<sub>2</sub>を排出した分をそのまま吸収（他のエリアでブルーカーボンの吸収も含めて）する考え方で、例えば（EVではなく）ハイブリッド車を半永久的に運用し続けることも可能になると考えています。

詳しくは、<https://www.garden-field.com/> の「ちさんちしょう」ご参照下さい。また関連で、「カーボンニュートラルの進め方」「木造人工島の波力発電」等、さらに「銀河鉄道之夜」「低速自動運転社会」「誰でもが幸せになれる社会」「ひだまり」「顔認証+」等も斜め読みでけっこうですので、ご一読くださりますと助かります。

PS. 「ノアの箱舟作戦」について、南海トラフ地震では、津波の高さが最大で34mと見積もっており、それ以上の高さの堤防を作るのは現実的ではなく、津波を一旦かわし（ノアの箱舟感覚で、木造人工島で波力発電機やブルーカーボンを守り）津波が引いたら、すぐに生活（電気と水とトイレを確保）ができるようにすればよいと考えています。